

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.7 (1966. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660701--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

田中敏弘著 『マンデヴィルの社会・経済思想』……………飯田 鼎 134 —イギリス18世紀初期社会・経済思想—
原 覚天編 『経済援助の研究』……………深海博明 135
隅谷三喜男著 『日本労働運動史』……………小松隆二 136
南 亮三郎著 『マルサス評伝』……………白井 厚 138 —その生誕200年の記念に—

財政学方法論に関連する問題

—カール・メンガーおよび岡野鑑記博士の解釈に対する疑問の提出—

高 木 寿 一

一、はしがき

昭和三十五年（一九六〇年）八月号の三田学会雑誌に、私は「一九五〇年代後期の日本の財政学における財政の本質および体系に関する問題」という表題の論文を書いたことがある。その「はしがき」に、武田・遠藤・大内力教授の共著「近代財政の理論」（一九五五年）序文の「これまでの財政学の著書のなかには……財政現象の本質とその運動法則とを明らかにすることによって、財政学を社会科学として確立するという点においては、かならずしも、じゅうぶんな努力が払われてはいなかったのではないかと思われる……」ということば、また安藤春夫教授の「財政学原理」（一九五八年）、時子山常三郎教授の「財政本質論」（一九六〇年）のそれぞれの「はしがき」に表明されていることばを引用した。そして、井藤↓安藤教授の解釈、井手文雄教授の「新稿 近代財政学」（一九五九年）、木村元一教授の「近代財政学総論」（一九五八年）、時子山教授の「財政本質論」、大内兵衛・武田隆夫教授の「財政学」（一九五五年）、武田・遠藤・大内力教授の「近代財政の理論」、島恭彦教授の「現代の国家と財政の理論」（一九六〇年）に表明されている解釈について、私自身の若干の疑問を提出した（三田学会